

令和7年7月9日 15:00現在

保健医療局 保健所 感染症対策課 担当 是松、古賀 電話 791-7081 内線199-133

麻疹（はしか）患者の発生について

令和7年7月8日、東京都の保健所管内で麻疹患者（検査診断例）の発生がありました。

管轄保健所において、患者の行動歴を確認したところ、周囲に感染させる可能性のある時期に、下記のとおり不特定多数の人が利用する施設を利用していたことが判明しましたのでお知らせします。

なお、患者の詳細については東京都の報道発表（別紙2）をご確認ください。

1 患者概要

年齢	性別	症状	海外渡航歴	ワクチン接種歴	発病日
40代	女性	発熱、発疹、咳・鼻汁・結膜充血、コプリック斑※	なし	2回	6月24日

※頬の粘膜（口のなかの頬の裏側）に出現する、やや隆起した1ミリメートル程度の白色の小さな斑点

2 患者が利用し不特定多数の方と接触した可能性のある施設及び公共交通機関

6月27日（金）

福岡空港国内線ターミナル（14時頃から17時15分頃まで）

※利用施設等へのお問い合わせはご遠慮ください。

《市民の皆様へ》

- 症状（別紙1）から麻疹が疑われる場合、事前に医療機関へ電話連絡の上、マスクを着用して医療機関の指示に従って受診してください。
- 受診の際には、感染を拡大させないように公共交通機関等の利用は控えてください。

《医療機関の皆様へ》

- 発熱や発疹を呈する患者が受診した際は、麻疹の予防接種歴の確認等、麻疹の発生を意識した診療をお願いします。
- 患者（疑い含む）は、個室管理を行う等、麻疹の感染力の強さを踏まえた院内感染対策を実施してください。

お 願 い

市政記者クラブの皆様におかれましては、患者及び患者家族等について、本人等が特定されることがないように、格段の御配慮をお願いします。

麻しん（はしか）について

- 麻しん（はしか）は、麻しんウイルスによる感染症です。
- 感染経路としては、空気（飛沫核）感染のほか、飛沫感染、接触感染など様々な経路があり、感染力はきわめて強いです。
- ほぼ100%の人に症状が現れますが、一度感染して発症すると一生免疫が持続すると言われてています。

《症状》

- 麻しんウイルスに感染して10～12日後に、発熱や咳などの症状が現れます。
- 38℃前後の発熱が2～4日間続き、倦怠感、上気道炎症状（咳、鼻水、くしゃみなど）、結膜炎症状（結膜充血、目やに、光をまぶしく感じるなど）が現れて次第に強くなります。
- 発疹が現れる1～2日前ごろに口の中の粘膜に1mm程度の白い小さな斑点（コプリック斑）が出現します。コプリック斑は発疹出現後2日目を過ぎるころまでに消えてしまいます。
- コプリック斑出現後、体温は一旦下がりますが、再び高熱（39.5℃以上）が出るとともに、赤い発疹が出現し全身に広がります。
- 発疹出現後3～4日で回復に向かい、合併症がない限り7～10日後には主症状は回復しますが、免疫力が低下するため、しばらくは他の感染症に罹ると重症になりやすく、体力などが戻るのに1か月くらいかかることも珍しくありません。
- 麻しんに伴って肺炎、中耳炎、脳炎などさまざまな合併症がみられることがあります。特に脳炎は、頻度は低い（1000人に1人）ものの死亡することがあり、注意が必要です。

《感染予防とまん延防止のために》～一人ひとりが気をつけましょう～

- 麻しんは、感染力がきわめて強いことから手洗いやマスクのみでの予防はできませんが、予防接種（ワクチン接種）を行うことによって、95%以上の人が免疫を獲得し、予防することができます。
- 予防接種は、自分が感染しないためだけでなく、周りの人に感染を広げないためにも有効です。
- 医療・教育関係者や、海外渡航を計画されている方は、麻しんの罹患歴や予防接種歴を確認し、明らかでない場合は予防接種を検討してください。
- 麻しんの予防接種歴がない方で、発熱、咳、鼻水、眼球結膜の充血等麻しんに特徴的な症状が現れた方は、事前に医療機関に電話で連絡し、指示に従って受診してください。
その際、症状出現日の10～12日前（感染したと推定される日）の行動（海外の流行地や人が多く集まる場所へ行ったかどうか等）について、医療機関にお伝えください。

《麻しんの予防接種について》

- ～1歳になったら1回、小学校入学前の1年間にもう1回予防接種を受けましょう～
「生後12月から生後24月に至るまでの間にある者」及び「5歳以上7歳未満の者であって、小学校就学の始期に達する日の1年前の日から当該始期に達する日の前日までの間にある者」は、予防接種法に基づく定期の予防接種を受けることができます。
- ※ 接種を希望される方は、お住まいの市町村の予防接種担当課にお問い合わせください。
- ※ 定期の予防接種の対象者以外の方で、麻しんの予防接種を希望される場合は、予防接種法に基づかない任意の接種で受けることができます（費用は自己負担となります）。医療機関の医師にご相談ください。
- 麻しんの流行がみられる国に渡航される方は、予防接種をご検討ください。なお、海外の流行情報は検疫所のホームページ（<http://www.forth.go.jp/>）で確認することができます。

《参考情報》

麻しんについて（厚生労働省ホームページ）

https://www.mhlw.go.jp/seisakunitsuite/bunya/kenkou_iryou/kenkou/kekaku-kansenshou/measles/index.html

麻しんとは（国立感染症研究所ホームページ）

<https://www.niid.go.jp/niid/ja/kansennohanashi/518-measles.html>

令和7年7月9日
保健医療局

麻疹（はしか）患者の発生について

令和7年7月8日（火曜日）に都内で麻疹患者（検査診断例）の発生がありました。

管轄保健所において疫学調査を実施し、接触者の健康観察を実施しています。

また、患者の行動歴を確認したところ、周囲に感染させる可能性のある時期に下記のとおり不特定多数の人が利用する公共交通機関等を利用していたことが判明しましたのでお知らせします。

【患者の概要】

性別	年齢	症状	海外 渡航歴	ワクチン 接種歴	発病日
女性	40代	発熱、発しん、咳、結膜充血、鼻汁、コプリック斑※	なし	2回	6月24日

※頬の粘膜（口のなかの頬の裏側）に出現する、やや隆起した1ミリメートル程度の白色の小さな斑点

【患者が利用し、不特定多数の方と接触した可能性のある公共交通機関等】

6月27日（金曜日）

- ・東京交通リムジンバス 羽田空港第2ターミナルからバスタ新宿まで
（17：40発 19：20着）

7月2日（水曜日）

- ・JR東京総合病院
（13：10から16：00頃）

※公共交通機関等へのお問い合わせは御遠慮ください。

上記日時に当該公共交通機関等を利用された方は、体調に注意し、麻疹を疑う症状（発熱、発疹、咳、鼻水、目の充血等）が現れた場合は、必ず事前に医療機関に連絡し、麻疹の疑いがあることを伝えてください。受診の際は公共交通機関の利用を控えて医療機関の指示に従って受診してください。

本情報提供は、感染症の拡大防止のために行うものですので、患者及び患者家族等の個人情報については、プライバシー保護の観点から本人等が特定されることのないよう、格段の御配慮をお願いいたします。

<都民の皆様へ>

- 麻しんは感染力がきわめて強い感染症で、感染すると約10～12日後に発熱や咳、鼻水といった風邪のような症状が現れ、2～3日熱が続いた後、39℃以上の高熱と発疹が出現すると言われています。
- 麻しんは予防接種で防げる病気であり、ワクチン接種は個人でできる有効な予防方法です。
麻しんの定期予防接種（第1期：1歳児、第2期：小学校就学前の1年間）をまだ受けていない方は、かかりつけ医に相談し、早めに予防接種を受けましょう。
- 海外に渡航し、帰国後に発熱や発疹などの麻しんを疑う症状がある場合は、かかりつけ医または医療機関に相談してください。受診の際は、必ず事前に医療機関に麻しんの疑いがあることを連絡の上、公共交通機関の利用を控えてください。

（麻しんに関する基礎知識や予防接種及び相談について、詳細はこちら➡）

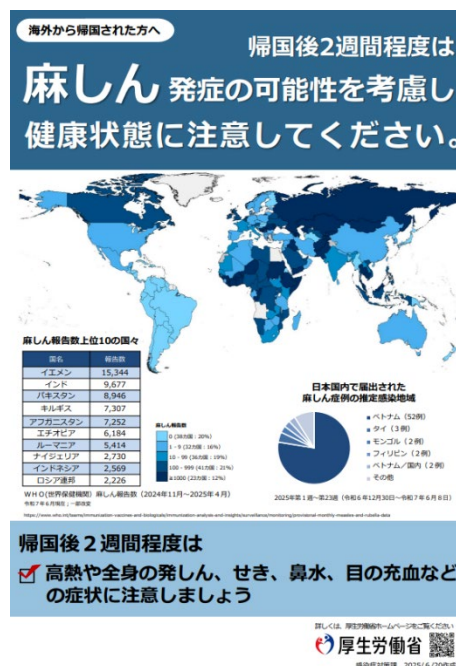
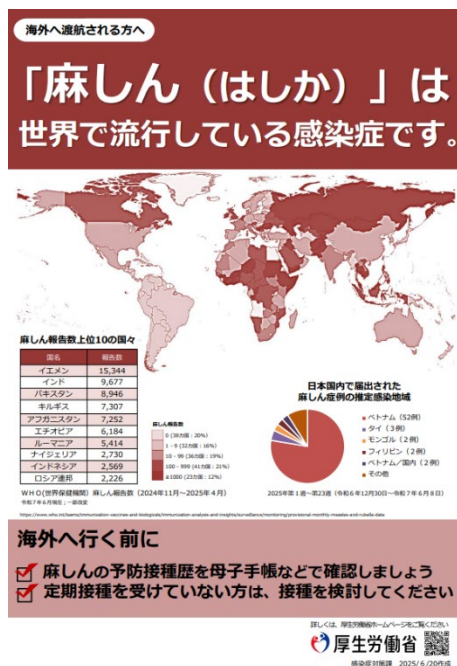


（参考）厚生労働省リーフレット：「麻しん（はしか）」は世界で流行している感染症です。

【出国前】



【帰国後】



【問合せ先】

○患者発生に関すること
保健医療局感染症対策部防疫課防疫担当 電話 03-5320-4088

○検査の技術的部分に関すること
東京都健康安全研究センター微生物部 電話 03-3363-3231

（参考）麻疹（はしか）とは

1 麻疹とは

麻疹は、麻疹ウイルスによる感染症であり、感染症法上の五類感染症です。

2015年には世界保健機関西太平洋事務局（WPRO）より日本は麻疹排除状態であると認定され、近年の麻疹の発生は輸入症例を端とするものとなります。

世界でも、麻疹の排除（elimination）に向けて、予防接種率の向上等の麻疹対策が強化されていますが、途上国では、いまだに5歳以下の子どもの主な死亡原因となっています。

2 原因と感染経路

病原体は、麻疹ウイルス（measles virus）です。

空気感染が主たる感染経路ですが、その他に、患者の咳やくしゃみに含まれるウイルスを吸い込むことによる「飛まつ感染」、およびウイルスが付着した手で口や鼻に触れることによる「接触感染」もあります。

発症した人が周囲に感染させる期間は、症状が出現する1日前から発疹消失後4日くらいまでとされています。なお、感染力が最も強いのは発疹出現前の期間です。

3 症状

感染力はきわめて強く、麻疹に対する免疫を持っていない人が、感染している人に接すると、ほぼ100%の人が感染します。感染しても発症しない不顕性感染はなく、全て発症します。典型的には、約10～12日間の潜伏期間の後、38℃程度の発熱及びかぜ症状が2～4日続き、その後39℃以上の高熱とともに発疹が出現します。主な症状は、発熱・発疹の他、咳、鼻水、目の充血などです。

また、合併症として、肺炎、中耳炎、稀に、脳炎、失明等があり、肺炎や脳炎は、重症化すると死亡することもあります。一度感染して発症すると一生免疫が持続すると言われています。

4 治療

特別な治療法は無く対症療法が行われます。感染初期であれば、緊急ワクチン・免疫グロブリンの投与により発症を防止できる可能性もあります。

5 予防のポイント

有効な予防法は、麻疹含有ワクチン接種です。

予防接種法に基づく定期予防接種が計2回（1回目：1歳～2歳未満 2回目：小学校入学前の1年間）行われていますので、対象者の方でまだ接種が済んでいない場合は早めの接種をお願いします。

令和5年度接種率 第1期（1歳児）：96.4%

第2期（小学校就学前の1年間）：91.7%

（参考）都内における麻疹患者発生状況

	2018年	2019年	2020年	2021年	2022年	2023年	2024年	2025年
東京都	23	124	2	0	0	10	10	19
全国	279	744	10	6	6	28	45	167

※東京都の2025年は7月8日までの届出数

※全国の2025年は第26週（2025年6月23日～6月29日）までの累積速報値